

2024 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

山本 致之 (大阪大)

この度、2024年4月2日から4月12日までの11日間、JUA/EAU Academic Exchange Programmeに参加させていただきましたのでご報告させていただきます。今回のプログラムはフランスのParisで病院見学をした後、同都市で開催されたEAU annual congressに参加し、オランダのAmsterdamにある病院を見学するものでした。今回は前回同様に韓国から2名、台湾から3名、日本からは福島県立医科大学の赤井畑秀則先生、計7名で参加しました。最初に4月2日から4月4日までは、フランスのParisで病院見学をさせていただきました。今夏にオリンピックを控えているParisは、夏の祭典に向けて病院近くの駅でも工事が進められており、町全体がとても活気がありました。ピティエ＝サルペトリエール病院 (University Hospital La Pitié-Salpêtrière) のMorgan Rouprêt 教授は大変ホスピタリティに富んでおり、プログラム開始前より私達と連絡をしっかりと取っていただきスムーズにプログラムを開始することができました。また連日、歓迎会を開いて下さり、Rouprêt 教授とスタッフの先生方と一緒にフレンチディナーを味わい、フレンチワインの美味しさに感激しながら、親睦を深めることができました。

病院見学ではロボット支援腹腔鏡下腎尿管摘除術、ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術を見学させていただきました。手術方法も当然勉強させていただきましたが、比

較的若い先生が大学病院で執刀しながら、指導医の先生方が丁寧に指導されている姿もとても参考になりました。また日本では実施されていないロボット支援人工尿道括約筋留置術も興味深く見学させていただきました。見学させていただいた症例は女性で、他の術式に比してカフ露出や感染のリスクが少ないことも教えていただきました。また手術見学だけではなく、現在フランスで実施されている前立腺癌や膀胱癌の最新の治験や治療実情についても丁寧に講義していただきました。

続いて4月5日から8日まで同じParisで開催されたEAU annual congressに参加しました。今回の学会は例年以上に充実した内容となっており、尿路上皮癌や前立腺癌の臨床ならびに基礎セッションに参加し、多くの新しい知見を得ることができました。また昨今のロボット支援手術の進歩に伴い多くのセッションがあり、ロボット支援生体腎移植術やロボット支援回腸利用尿管狭窄手術に関する熱い議論も拝聴することができました。4月6日の夜には有名な観光地でもあるオペラ座のすぐ側にあるInterContinental Paris Le Grandで開催されたfriendship dinnerに参加しました。歴史あるParisにふさわしい煌びやかな会場に感動を覚え、豪華なフレンチディナーを楽しみながら、韓国、台湾のメンバーと共に最高の時間を過ごすことができました。さらに世界的に著名な先生方の前で壇上に呼んでいただき、黄金の重厚な盾をいただき、一生忘れない思い出となりました。

Parisで最高の時間を過ごした後、4月8日にユーロスターからの車窓を楽しみながら、オランダのAmster-



写真1 ピティエ＝サルペトリエール病院のMorgan Rouprêt 教授に招待いただいた食事会



写真2 EAU President's & International Friendship dinnerにて台湾、韓国、日本のメンバーでの記念写真



写真3 Antoni van Leeuwenhoek hospital (Amsterdam) での集合写真



写真4 Amsterdam University Medical Center の Jeroen van Moorselaar 教授に招待いただいた食事会

damに移動しました。4月9日と4月11日は Amsterdam University Medical Center で、4月10日は Antoni van Leeuwenhoek hospital でそれぞれ手術見学ならびに病院見学をさせていただきました。Amsterdam University Medical Center の Jeroen van Moorselaar 教授はとてもフレンドリーで、また様々な分野に高い博識と興味を持っていらっしゃるすばらしい先生でした。Amsterdam University Medical Center では、ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術、ロボット支援膀胱全摘除術、口腔粘膜を用いた尿道形成手術、性別適合手術（女性→男性）を見学させていただきました。オランダでは Amsterdam University Medical Center や他の一部施設では、ロボット手術の助手と直介を看護師一人で兼任し、医師が助手に入らず、文化や医療システムの違いに驚きました。また性別適合手術（女性→男性）も初めて見学させていただきました大変勉強になると同時に、この手術が保険診療で実施されていることに、文化・価値観の違いにとっても驚かされました。また Antoni van Leeuwenhoek hospital では、ロボット支援膀胱全摘除術を見学させていただきました。また臨床研究として実施されている前立腺癌のオリゴ再発に対する PSMA を標的としたアイソトープを用いたロボット支援骨盤内リンパ節郭清術も見学させていただきました、他にも多くの臨床研究を実施し、臨床だけで

はなく科学的にも重要かつ興味深い試みをしていることに感銘を覚えました。最終日の午後には、Amsterdam University Medical Center の複数の先生方と一緒にサイクリングをしながら、Amsterdam の美しい街並みや運河を楽しみ、またアムステルダム国立美術館も案内していただき、最後に運河でボートトリップを楽しみながらみんなでビールを飲み、最高のおもてなしをいただきました。4月12日、無事帰国しました。

このプログラムでは韓国、台湾のメンバーと病院見学や EAU annual congress を通して、様々な意見を交わし、親睦を深めることができました。また彼らの泌尿器科医師としての高い志に触れ、私自身も臨床・研究・教育における刺激をもらいました。今後、KUA, TUA, JUA の学会で是非、再会しようと約束をしました。過去の参加者も同様に述べておられますが、同年代のアジア泌尿器科のメンバーと交流できたことは一生の財産になったと確信しています。このプログラムを通して得られた貴重な経験を糧に臨床、研究に精進してまいります。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただきました JUA, EAU の関係者の方々、また私達を快く受け入れていただいた病院関係者に深く感謝申し上げます。